


お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。

名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

●アフターサービスのお問い合わせは下記へどうぞ

コロナサービスセンター
 **0120-919-302** (修理受付専用ダイヤル)
FAX 0120-919-322

携帯電話・PHS等からは
最寄りのサービスセンター
へ直接おかけください。

北海道地区	札幌サ-ビスセンター 札幌市白石区米里3条2丁目6-25 TEL 011-864-0440(代表) FAX 011-863-3154	札幌市白石区米里3条2丁目6-25 TEL 011-864-0440(代表) FAX 011-863-3154	札幌市白石区米里3条2丁目6-25 TEL 011-864-0440(代表) FAX 011-863-3154
東北地区	青森サ-ビスセンター 青森市古館1丁目12-38 TEL 030-0946 FAX 030-0946	青森市古館1丁目12-38 TEL 030-0946 FAX 030-0946	青森市古館1丁目12-38 TEL 030-0946 FAX 030-0946
関東地区	首都圏サ-ビスセンター 東京都中央区豊島8-4-8 TEL 114-0003 FAX 114-0003	東京都中央区豊島8-4-8 TEL 114-0003 FAX 114-0003	東京都中央区豊島8-4-8 TEL 114-0003 FAX 114-0003
信越・北陸地区	新潟サ-ビスセンター 新潟市中央区東区 TEL 955-0864 FAX 955-0864	新潟市中央区東区 TEL 955-0864 FAX 955-0864	新潟市中央区東区 TEL 955-0864 FAX 955-0864
東海地区	名古屋サ-ビスセンター 名古屋市中区栄2-15-30 TEL 456-0004 FAX 456-0004	名古屋市中区栄2-15-30 TEL 456-0004 FAX 456-0004	名古屋市中区栄2-15-30 TEL 456-0004 FAX 456-0004
近畿・四国地区	大阪サ-ビスセンター 大阪市東区東区 TEL 564-0044 FAX 564-0044	大阪市東区東区 TEL 564-0044 FAX 564-0044	大阪市東区東区 TEL 564-0044 FAX 564-0044
中国地区	広島サ-ビスセンター 広島市安佐南区 TEL 731-0138 FAX 731-0138	広島市安佐南区 TEL 731-0138 FAX 731-0138	広島市安佐南区 TEL 731-0138 FAX 731-0138
九州地区	福岡サ-ビスセンター 福岡市博多区東区 TEL 812-0007 FAX 812-0007	福岡市博多区東区 TEL 812-0007 FAX 812-0007	福岡市博多区東区 TEL 812-0007 FAX 812-0007
沖縄地区	沖縄サ-ビスセンター 宜野湾市宇地泊738 TEL 901-2227 FAX 901-2227	宜野湾市宇地泊738 TEL 901-2227 FAX 901-2227	宜野湾市宇地泊738 TEL 901-2227 FAX 901-2227

07129002

本社・工場 三條市東新保7-7 TEL 955-8510 TEL(0256)32-2111(大代表)
 柏崎工場 柏崎市宝町2-58 TEL 945-0817 TEL(0257)23-5175(代表)
 長岡工場 長岡市下条町倉ノ浦1069 TEL 940-1146 TEL(0258)22-2121(代表)

株式会社 **コロナ**

ホームページ <http://www.corona.co.jp/>

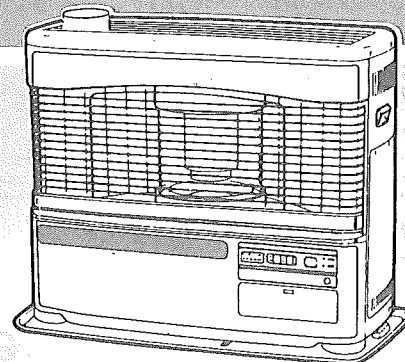
207WA0362-0 1 2 3 ①

CORONA

コロナ半密閉式石油ストーブ 取扱説明書

正しく使って上手に節約

ユー・エイチ ビー・アール
UH-7710PR



もくじ

ページ

- 1.特に注意していただきたいこと
(安全のために必ずお守りください) 1~4
- 2.使用場所.....4
- 3.各部の名称.....5~7
- 4.使用前の準備.....8~10
- 5.使用方法(使い方).....10~18
- 6.安全装置.....18
- 7.その他の装置.....19
- 8.日常の点検・手入れ.....20~24
- 9.定期点検.....24
- 10.故障・異常の見分け方と処置方法 25~26
- 11.部品交換のしかた.....27
- 12.保管(長期間使用しない場合).....27
- 13.仕様.....28~29
- 14.アフターサービス.....29
- 15.据付け・移設.....30~32

このたびはコロナ石油ストーブをお買い上げ
 くださいましてありがとうございました。
 ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよ
 く読んで、正しく使用してください。
 まちがった取扱いは思わぬ事故や故障の原因
 となります。
 お読みになった後も取扱説明書は「保証書」・
 「工事説明書」と共に必ず保管してください。



株式会社 **コロナ**

1. 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

- 警告** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
- 注意** この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は一般的な注意)が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合はガソリン禁止)が描かれています。



①記号は行為を指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

警告(WARNING)

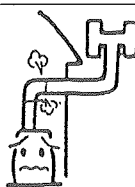
●ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。



●煙突外れ危険

煙突が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



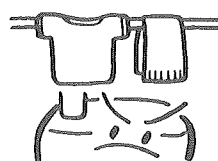
●煙突閉そく危険

煙突がつまったり、ふさがれたまま使用しないでください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



●衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



●スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。



●低温やけどに注意

長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。
比較的低い温度でも低温やけどや脱水症状の原因となります。



1. 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)

注意(CAUTION)

●カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。
火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据付け例(30ページ)を参照してください。



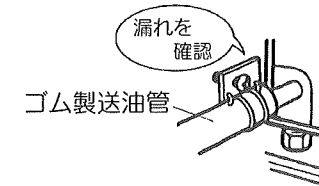
●給油時消火

給油は、必ず消火してから行なってください。
火災のおそれがあります。



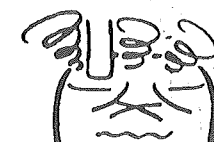
●油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよび機器などからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。



●異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。



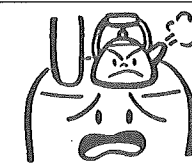
●高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、煙突、桯上部に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。



●やかんのせ禁止

やかんなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。



●分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。



●腰をかけたり物をのせない

機器の上ののったり、腰をかけたりしないでください。機器の故障や、やけどのおそれがあります。機器の上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



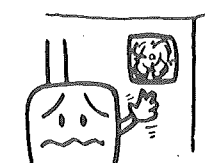
●改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
また、ストーブや煙突には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。



●換気扇使用禁止

ストーブを使用している時は室内の換気扇を使用しないでください。立消えして爆発燃焼するおそれがあります。
また、換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがれないでください。



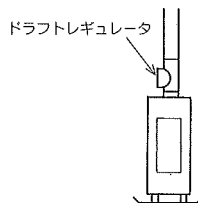
1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠ 注意(CAUTION)

●ドラフトレギュレータの取り付け

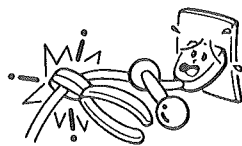
煙突の引き(ドラフト)が強いと燃焼不良が発生します。次の煙突設置の場合は必ず、ダブルドラフトレギュレータ(別売品 DR-1)を取り付けてください。

- ・集合煙突に接続する場合・標準寸法以上に立ち上がりが高い場合
- ・風が強くて炎が沈むような場合



●電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



●電源プラグは確実に差しこむ

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差しこんでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手で抜き差ししないでください。感電の原因になります。



●長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因となります。



●電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり及び金属物を除去してください。ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



●灯油の保管

灯油は、火気、雨水、こみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどといっしょに保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



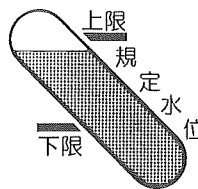
●変質灯油禁止

変質灯油、不純灯油(汚れた灯油、水の混じっている灯油など)を使用しないでください。異常燃焼や故障のおそれがあります。



●シスターンの水位に注意

循環水は少しずつ蒸発します。1ヶ月に1回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は補充液を補給してください。上限水位以上は、入れないよう注意してください。床暖パネルを接続しない場合は、循環水は不要です。



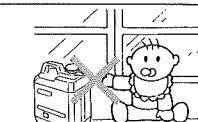
●カーペットのはがれに注意

カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。



●循環液(循環水・不凍液)の保管に注意

幼児の手の届かない所に保管してください。万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。



●初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合がありますので、この間は部屋に入れないでください。



●外出する時は消火

外出のときは、必ず運転を停止し消火してください。



1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

お願い(NOTICE)

●機器を廃棄するときの注意

ストーブを廃棄処分するときは、必ず定油面器の灯油を抜き取ってください。(21ページ)
灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

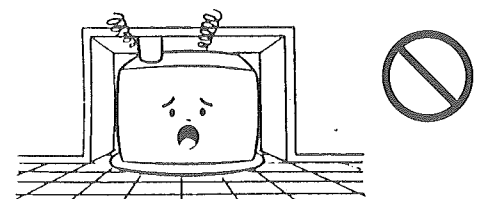
●灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

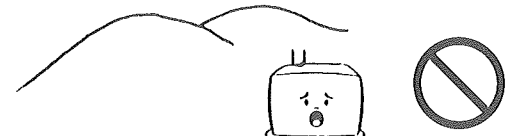
2.使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために

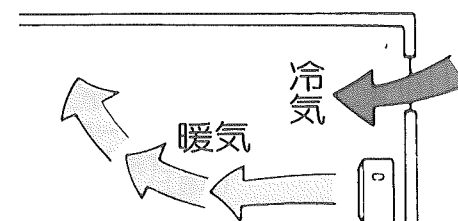


●マントルピースなどには据付けしないでください。



●標高が1000mを超える高地では使用しないでください。(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。)

効果的に使用するために



●冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので、効果的です。

出入口など人の通るところは、ぶつかる危険ですので避けてください。

●部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ふく射熱によってストーブ本体の温度が上昇して危険です。

使用場所には十分注意して効果的に使用してください。

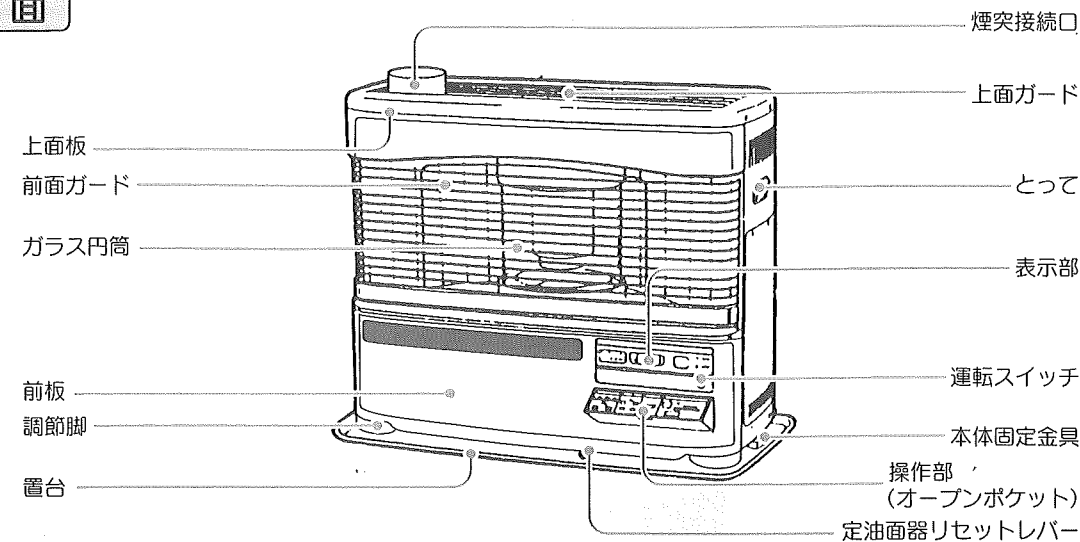
●ストーブの前は、反射板からのふく射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。

●温水配管の長さができるだけ短くなるような位置にストーブを設置してください。

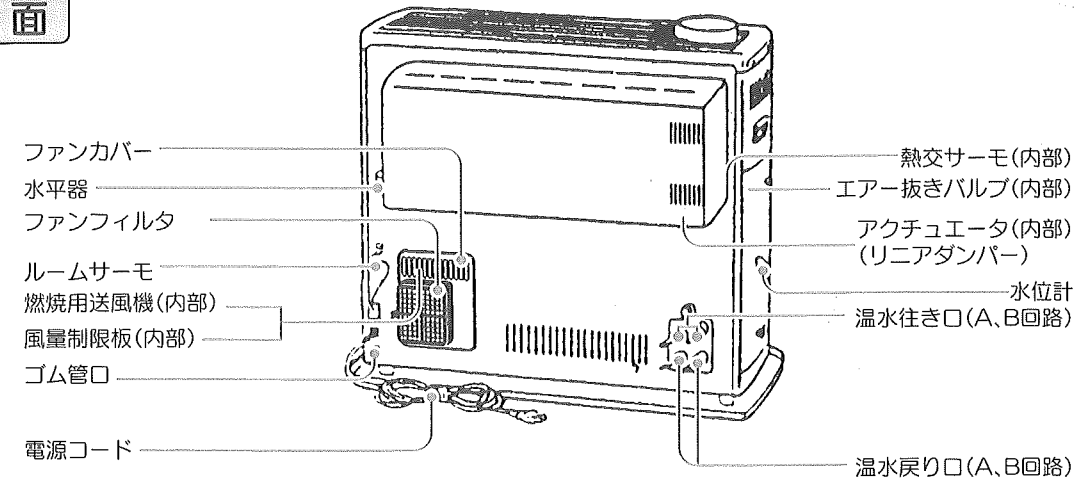
3.各部の名称

外観図

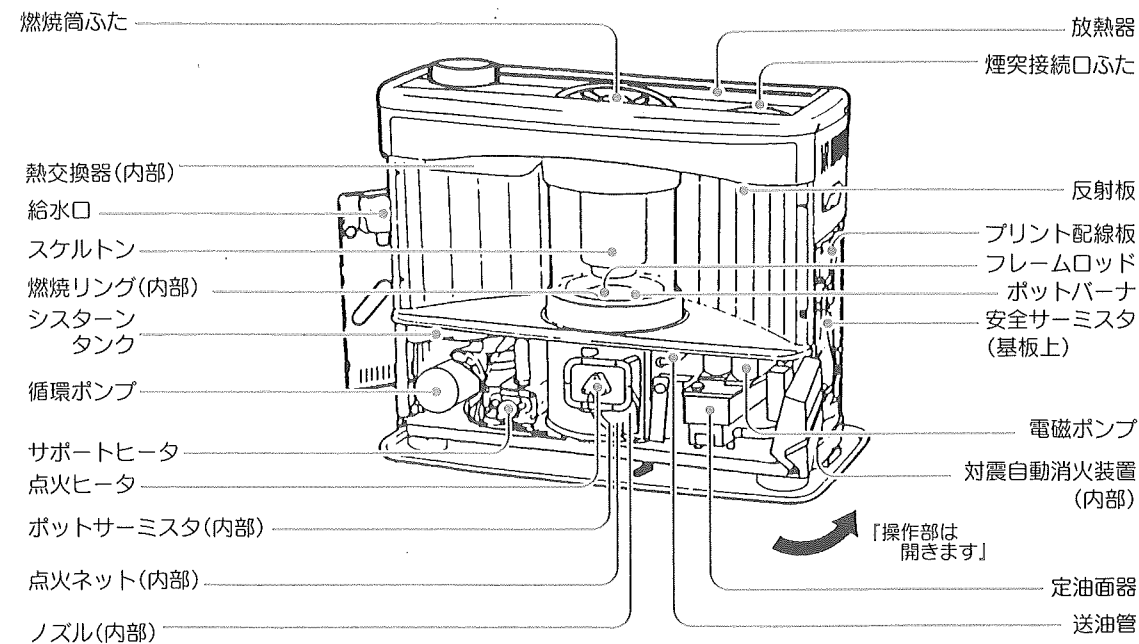
正面



背面



構造図



3.各部の名称

表示部の名称と働き

■ 運転停止中及びタイマー運転中は節電のため表示の明るさ(輝度)が落ちます。

設定床温表示ランプ (緑)

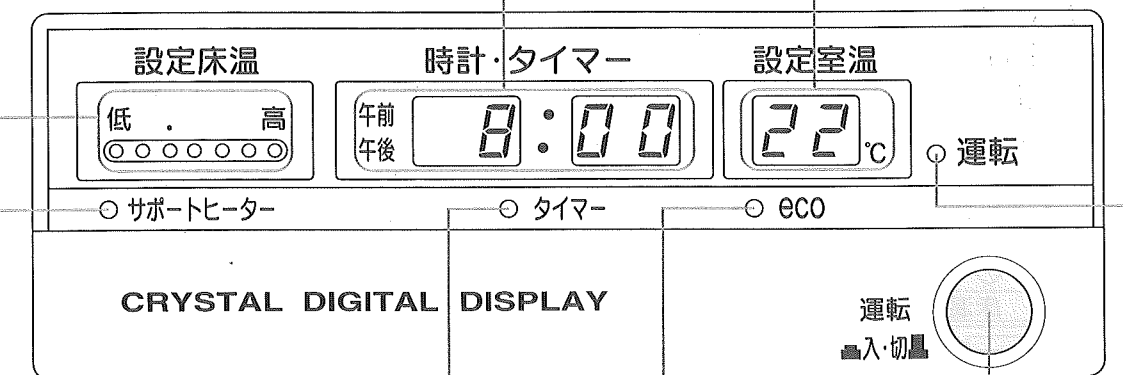
- ・ 床温調節ボタンで設定した床温を表示します。
- ・ 床暖房運転時に点灯します。
- ・ 左から3個目のランプが点灯したときは適温設定になります。

時刻表示(緑)

- ・ 通常は現在時刻を表示します。
- ・ タイマー運転時はタイマーセット時刻を表示します。

設定室温表示 (緑)

- ・ 室温設定ボタンで設定した室温をデジタル表示します。
- ・ ストープにトラブルが発生すると、トラブルの状態が記号表示 (自己診断モニタ) されます。



サポートヒータ 運転ランプ(赤)

- ・ サポートヒータ運転中は点灯します。
- ・ サポートヒータ運転停止中は消灯します。

eco運転表示ランプ(緑)

- ・ eco (エコ) 運転中は点灯し、解除すると消灯します。

タイマー表示ランプ(緑)

- ・ タイマー運転中は点灯します。
- ・ タイマー運転停止中は消灯します。

運転ランプ(緑)

- ・ 運転スイッチを押す (ON) と点灯します。
- ・ もう一度押す (OFF) と消灯します。

運転スイッチ

- ・ 押す (ON) と運転 (点火) します。
- ・ もう一度押す (OFF) と消火します。

3.各部の名称

オープンポケット内操作部の名称と働き

■オープンポケットの開閉

- オープンポケットを軽く押しこむと、ゆっくり出てきます。操作後軽く押しもどすとロックして止まります。

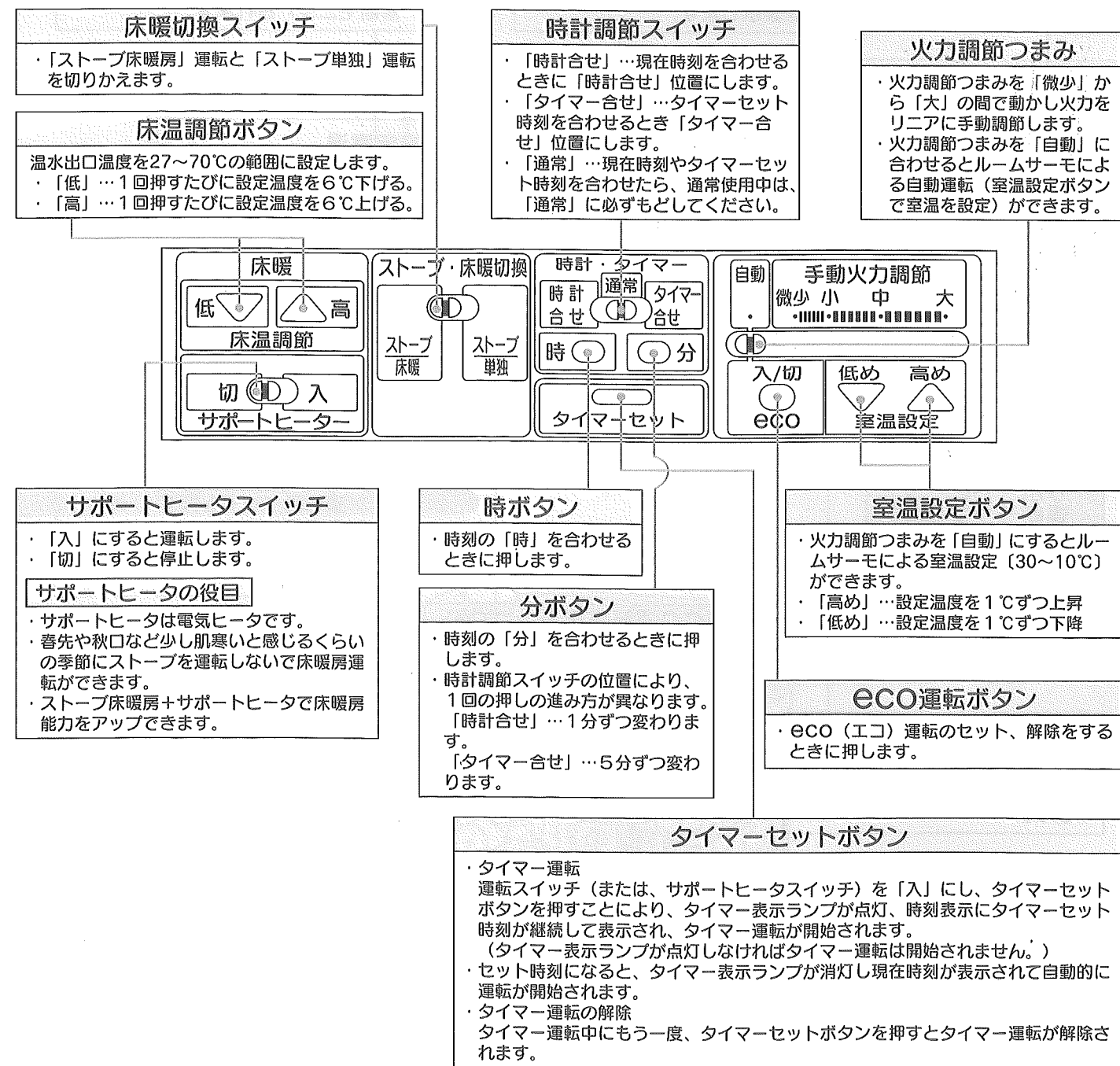
操作するとき以外は、閉じてご使用ください。

■操作音について

- 操作ボタンを押すとピッと音がします。
- 誤操作をするとピッ音が2回します。

■表示部の明るさ調節

- 時計調節スイッチを「通常」に合わせて「時ボタン」を押しながら「分ボタン」を押すことにより、表示部の明るさを2段階に調節することができます。
(このときピッ音が2回しますが、誤操作ではありません。)



4.使用前の準備

燃 料

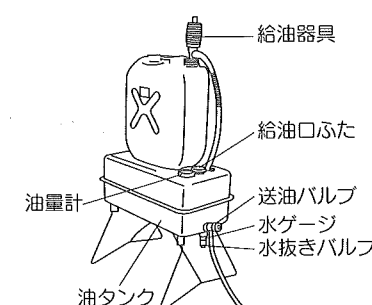
燃料は灯油（JIS 1 号灯油）を必ず使用してください。

- **△警告** ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。
- **△注意** 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。
- **△注意** 灯油は、必ず火気・雨水・ごみ・高温及び、直射日光を避けた場所に保管してください。



給 油

■給油の際の手順と注意



- 送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油器具で灯油を給油してください。油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
- 給油口ふたを必ずもとどおりに締めてください。
- 給油の際に、水、ごみなどを入れないよう特に注意してください。
- **△注意** 給油は、必ず消火してから行ってください。火災のおそれがあります。

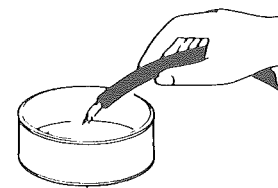
■給油口ふたは、確実に締めてください。

■こぼれた灯油はよくふきとってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。

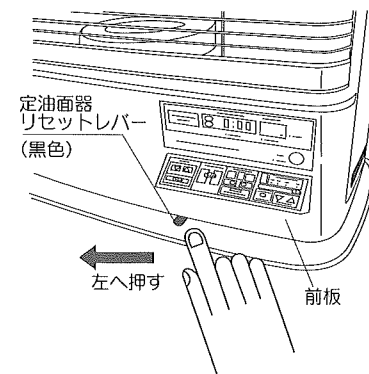
油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合は次の順序で空気抜きをしてください。



1. 油タンクに給油します。
2. ストーブのゴム管口から、ゴム製送油管をはずします。
3. ゴム製送油管から油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。（油がこぼれないように容器を用意してください。）

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱上の注意



定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ正面右下の定油面器リセットレバー（黒色）を左方向に止まるまで押してください。

- リセットレバーは据付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。
- 万一、点火操作後灯油が出ずにモニターサインE2が表示されるような場合はリセットレバーを押してください。
(安全弁がはずれ、灯油がスムーズに流れます。)
- リセットレバーは乱暴に扱ったり、押したままの状態には絶対にしないでください。

4.使用前の準備

運転開始前の準備と確認

■送油経路の油漏れの確認

- 油タンクや送油管の接合部などから油漏れがないかどうか確認してください。

■電気配線の確認

- △注意** 電源プラグをコンセントに根元まで確実に差しこんでください。
- 電源コードが煙突などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

△注意 電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…

- 電源は必ず適正配線された単相100Vコンセントを使用してください。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

■接地(アース)の確認

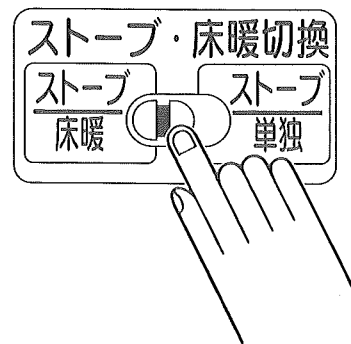
- 工事説明書に従い、接地(アース)がとられているかどうか確認してください。

■点火の要領と注意

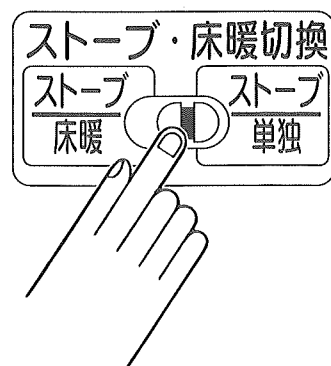
床暖切換スイッチのセット

ストーブ単独で運転する場合は「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転をおこなう場合は「ストーブ床暖房」に、床暖切換スイッチをセットしてください。床暖切換スイッチのセットは運転開始前に行ってください。

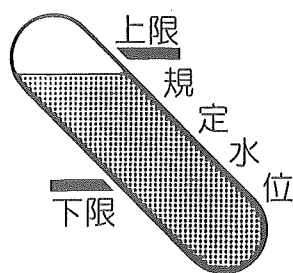
- ストーブ床暖房で運転する場合



- ストーブ単独で運転する場合



循環水の水位確認



- △注意** ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位(上限水位と下限水位の間)まで循環水(コロナ床暖房用循環液)が入っていることを確認してください。循環水が入っている場合は黄色になります。循環水は上限以上入れないように注意してください。水位が下限以下の場合は、床暖房専用補充液を入れてください。

温水配管の水漏れの確認

- ストーブ内部や温水配管接合部から水漏れがないか確認してください。
- 床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

4.使用前の準備

■運転中に床暖切換スイッチを操作した場合の注意

むやみに、ストーブ単独→ストーブ床暖房に切りかえないでください。循環水のつまりの原因になります。

- ストーブ単独→ストーブ床暖房**…自動的にいったん消火して、約10分後に再点火し、ストーブ床暖房運転を開始します。そのとき、「ジュー」という循環水の蒸発音が発生することがありますが異常ではありません。
- ストーブ床暖房→ストーブ単独**…運転はそのまま続きます。しばらくして「ジュー」という循環水の蒸発音がしますが異常ではありません。

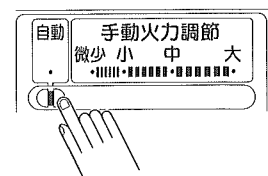
5.使用方法使い方)

運転開始(点火)

- オープンポケット内の火力調節つまみで「自動運転」と「手動運転」が設定できます。ご希望の運転方法でご使用ください。

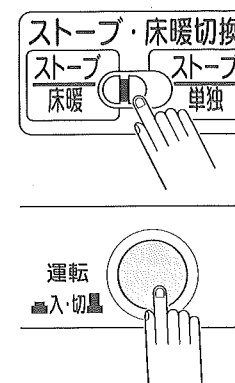
点火順序

■ストーブ火力調節「自動運転」の場合

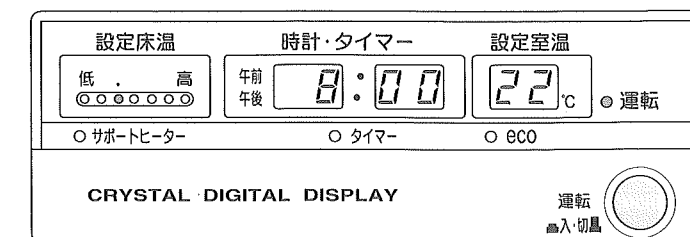
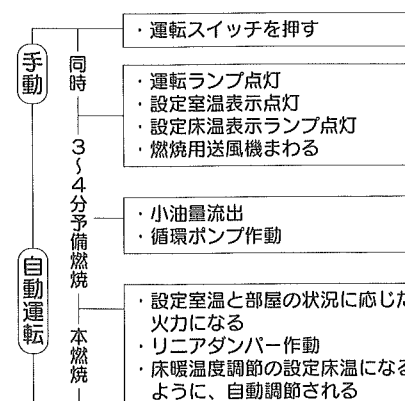


- 火力調節つまみを「自動」に合わせてください。設定室温と部屋の状況に応じた火力で燃焼します。(ストーブ火力調節「手動運転」(微少～大)の場合は、火力調節つまみの設定火力で燃焼します。)
- 時計合せは15ページ「現在時刻の調節方法」を参照して行ってください。

ストーブ床暖房運転



1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2. オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」に合わせてください。
3. 運転スイッチを押して「入」にしてください。自動的に、次のように運転(予備燃焼・本燃焼)します。(ストーブ火力調節「手動運転」(微少～大)の場合は設定室温の表示はありません。)

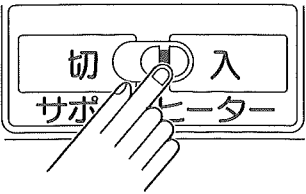


※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。

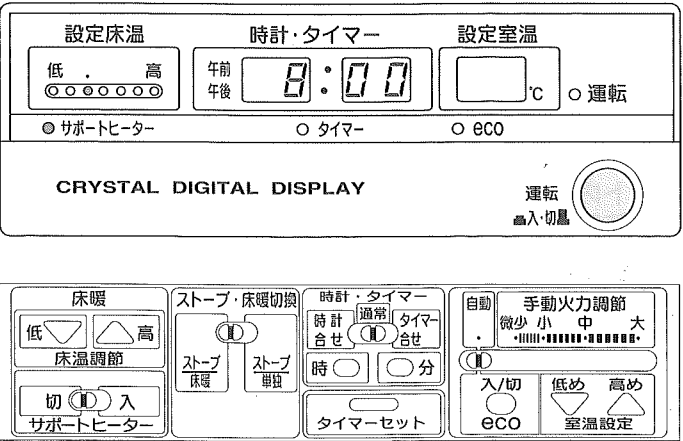
運転開始(点火)

サポートヒータ運転

●サポートヒータは電気ヒータです。春先や秋口など少し肌寒いと感じるくらいの季節にストーブを運転しないで床暖房運転ができます。



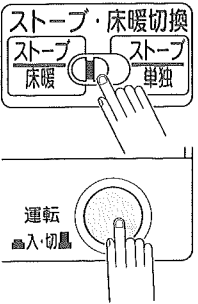
- 1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
- 2. オープンポケット内のサポートヒータスイッチを「入」にしてください。自動的に、次のように運転します。



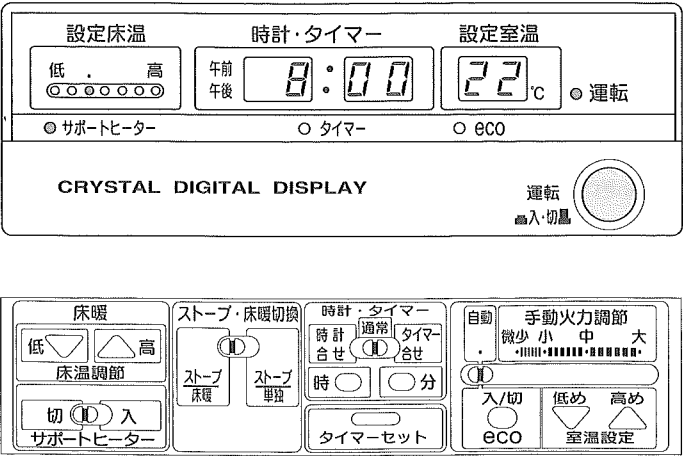
- 同時
・サポートヒータスイッチを「入」にする
- 自動運転
・サポートヒータ運転ランプ点灯
・設定床温表示ランプ点灯
・サポートヒータ運転
・循環ポンプ作動
- ・床暖温度調節の設定床温になるようにサポートヒータ出力が、自動的に制御される

ストーブ床暖房・サポートヒータ併用運転

●ストーブ床暖房プラスサポートヒータで床暖房能力をアップできます。



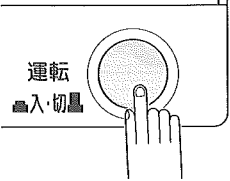
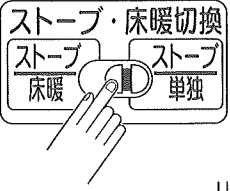
- 1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
- 2. オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」に合わせてください。
- 3. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
- 4. オープンポケット内のサポートヒータスイッチを「入」にしてください。自動的に、次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。（ストーブ火力調節「手動運転」（微少～大）の場合は設定室温の表示はありません。）



- 同時
・運転スイッチを押す
・サポートヒータスイッチを「入」にする
- 3～4分予備燃焼
・運転ランプ点灯
・設定室温表示点灯
・設定床温表示ランプ点灯
・燃焼用送風機まわる
・サポートヒータ運転ランプ点灯
- 自動運転
・小油量流出
・循環ポンプ作動
- 本燃焼
・設定室温と部屋の状況に応じた火力になる
・リニアダンパー作動
・床暖温度調節の設定床温になるように、リニアダンパー及びサポートヒータ出力が、自動的に制御される
・サポートヒータ運転

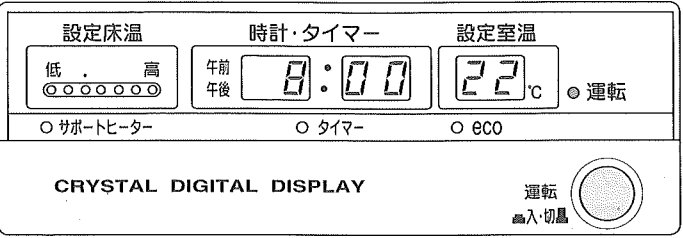
※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。

ストーブ単独運転



- 同時
・運転スイッチを押す
- 3～4分予備燃焼
・運転ランプ点灯
・設定室温表示点灯
・燃焼用送風機まわる
- 自動運転
・小油量流出
- 本燃焼
・設定室温と部屋の状況に応じた火力になる

- 1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
- 2. オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に合わせてください。
- 3. 運転スイッチを押して「入」にしてください。自動的に、次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。（ストーブ火力調節「手動運転」（微少～大）の場合は設定室温の表示はありません。）

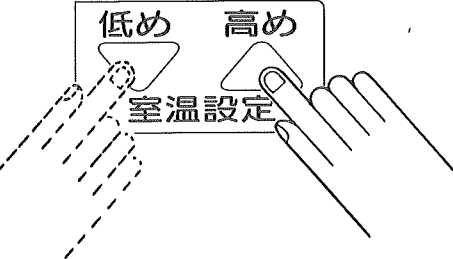


※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。

- 運転スイッチを「入」にしたとき、運転ランプが点灯せずにタイマー表示ランプが点灯する場合は、タイマー運転となりますので、タイマーセットボタンを押してタイマー運転を解除してください。
- 燃焼中に運転スイッチを押して「消火」にしたり、タイマーセットボタンを押すなどして約1秒以上通電を止めると自動消火し、約2分間の冷却の後でないと再点火できません。

室温の調節(自動運転)

オープンポケット内の火力調節つまみを「自動」に合わせると、ルームサーモによる自動運転となり、設定室温に自動調節されます。
表示部に設定室温（22℃）が表示されますので次のように調節してください。



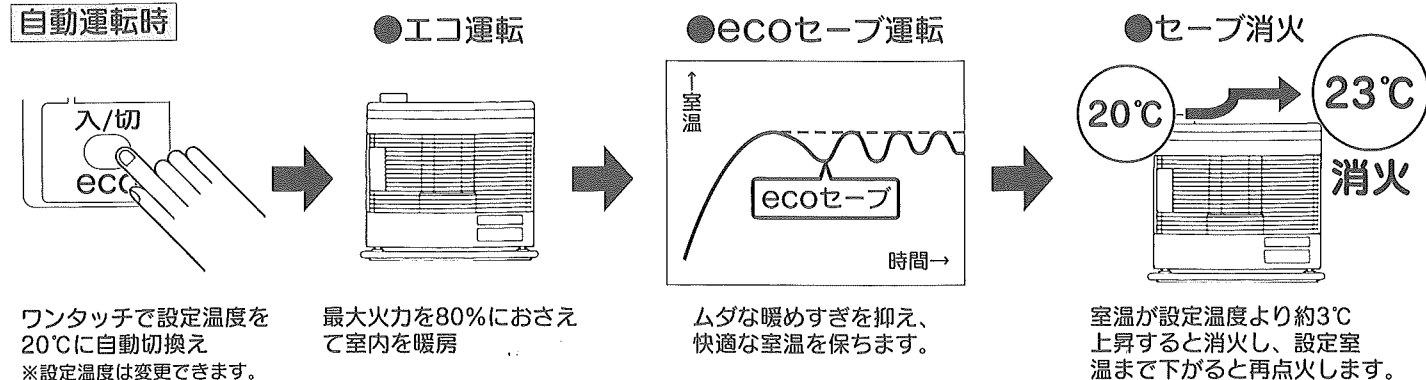
- 室温設定ボタン「高め」を押すたびに1℃上昇します。（上限30℃）
- 「低め」を押すたびに15℃までは1℃ずつ下がります。（下限10℃）

- 自動運転時に微少火力でも室温が設定温度より上昇する場合、設定温度より3℃上昇すると自動的に消火するECO（エコ）運転をおすすめします。（P13 ECO（エコ）運転の項参照）
室温が設定温度より3℃上昇すると消火し、お部屋のムダな暖めすぎを抑えます。

eco (エコ) 運転

eco (エコ) 運転は、自動運転時にeco運転ボタンを押すだけで設定温度が20℃に切り換わり、セーブ消火とecoセーブ運転でムダな暖めすぎを抑え、快適で経済的な室温をキープします。
また、自動運転時は最大火力を70~90%、手動運転時は最大火力を80~90%に抑えてお部屋の暖めすぎを防止します。

自動運転時

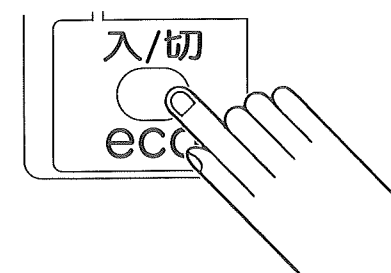


- 室温が20℃未満で30分以上運転した場合は、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が20℃以上の場合、最大火力を80%におさえて運転します。
- 室温が24℃以上で30分以上運転した場合、(設定温度を22℃以上に設定) 最大火力を70%におさえて運転します。

手動運転時

- 室温が20℃以上の場合、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が24℃以上で30分以上運転した場合、最大火力を80%におさえて運転します。(火力表示は最大のままです)

■セットのしかた eco運転ボタンを押してください。



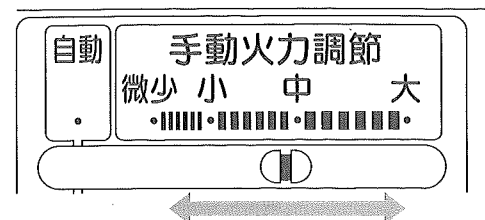
- 「eco」運転表示ランプが点灯し、自動運転の場合設定温度が20℃に設定され、eco (エコ) 運転になります。
- 上記の設定温度20℃は初期設定ですので、室温設定ボタンによりご希望の室温を10℃~30℃に設定できます。
- 手動運転の場合は最大火力時にeco (エコ) 運転がはたらきます。

解除するときは…再度、eco運転ボタンを押してください。

- eco (エコ) 運転が解除されます。(eco (エコ) 運転前の設定にもどります)
- eco (エコ) 運転中に運転を停止し、再び運転を再開したときは、eco (エコ) 運転を行います。

火力調節 (手動調節—手動運転)

室温設定による自動運転の他に、火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。次のようにしてください



- オープンポケット内の火力調節つまみを「微小」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
表示部の設定室温表示が消え、予備燃焼が終了すると約2.5分間火力は中火力になり、その後は火力調節つまみの設定火力で燃焼します。

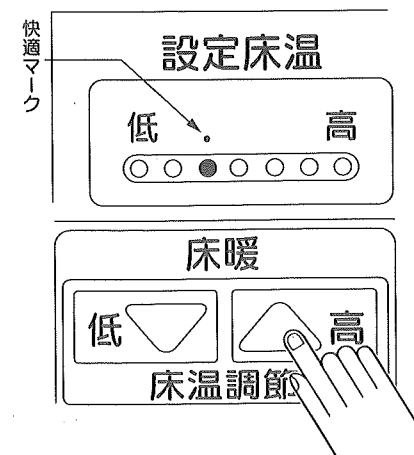
■炎の状態

ストーブの据付けや煙突の関係で、炎は多少変化します。

- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎(赤火)がまじっても異常ではありません。
- 燃焼中に炎の片寄り又は、上下変動することがありますが、ドラフトおよび風量の変動によるもので異常ではありません。

床暖パネルの温度調節

ストーブ床暖房運転、サポートヒータ運転、ストーブ床暖房・サポートヒータ併用運転のいずれの場合も循環水が設定温度になるように、自動的に温度調節されます。又、設定床温表示ランプに快適マークがついています。快適マークは、床暖パネルのカーペット表面をほぼ33~34℃(床暖パネル3畳の場合)に保つ循環水温度を示します。ご参考にされると便利です。



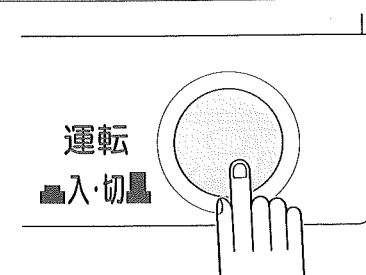
1. 特に温度設定しない場合は、自動的に快適マークの位置(設定床温表示ランプの3つ目)に設定されランプ表示します。
2. 床温調節ボタンを押すと次のように床温調節で設定床温表示ランプも移動点灯します。
 - ・「低」……1回押すたびに設定温度を6℃下げ、ランプ表示が左側へ移動。
 - ・「高」……1回押すたびに設定温度を6℃上げ、ランプ表示が右側へ移動。

●床暖の温度調節は、足元(床暖パネルの表面温度)の温度調節のため、部屋全体の温度調節ではありません。カーペットの表面が熱くなりすぎないように使用温度には、十分注意してください。

運転停止(消火)

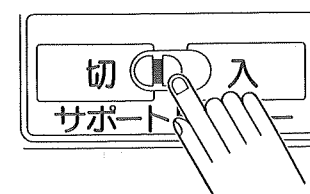
消火順序

ストーブ床暖房運転 ストーブ単独運転



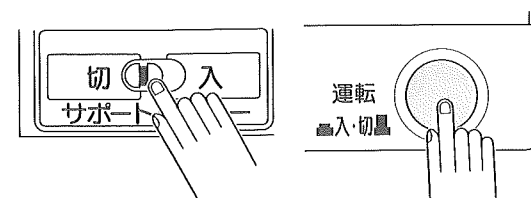
運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、循環ポンプ(ストーブ床暖房運転のみ)が停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

サポートヒータ運転



サポートヒータスイッチを「切」にしてください。
サポートヒータ運転ランプ、設定床温表示ランプが消灯し、同時に、サポートヒータ、循環ポンプが運転を停止します。

ストーブ床暖房・サポートヒータ併用運転



運転スイッチ、サポートヒータスイッチを「切」にしてください。運転ランプ、サポートヒータ運転ランプが消灯し、サポートヒータが運転を停止します。燃焼室が冷却すると、自動的に燃焼用送風機、循環ポンプが停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。
サポートヒータスイッチの切り忘れに注意してください。

- △注意** 2日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外出のときは、必ず運転を停止(消火)してください。
- 運転停止後、燃焼用送風機が停止するまでは電源プラグを抜かないでください。もし抜きますと、ガラス円筒がくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

消火後、再点火するときの注意

- 燃焼中に誤って電源プラグを抜いたり、運転スイッチを「切」にすると、再点火安全装置の動きで、ストーブが冷却されるまでの約2分間は再点火できません。
ただし瞬間的な消火操作(約1秒以内)の場合は、そのまま燃焼が継続されます。
- 停電時には、必ず運転スイッチを「切」にしてください。

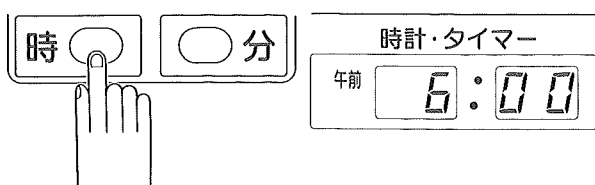
現在時刻の調節方法



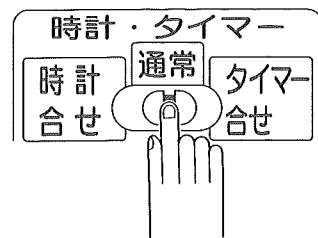
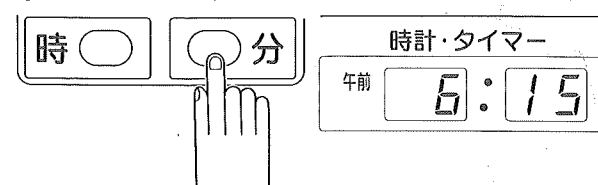
1. オープンポケット内の時計調節スイッチを「時計合せ」にします。
はじめて使用するときや、電源プラグを長時間抜いたときは、時刻表示は--:--を表示します。
2. 時計調節の「時」・「分」ボタンを押して現在時刻を合わせます。

例：午前6時15分に合わせる場合

- ①「時」ボタンを押して“午前6：00”にします。



- ②「分」ボタンを押して“午前6：15”にします。

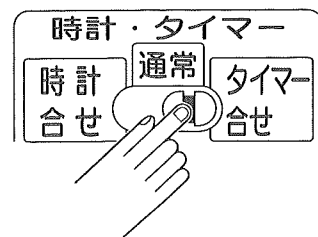


3. 必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。
(時計は、時計調節スイッチを「通常」位置にもどした時点から動き始めます。)

- 必ず時計調節スイッチが「通常」になっていることを確認してください。
- 30秒以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合わせの必要はありませんがそれ以上の停電で、時刻表示が--:--を表示した場合は、時刻合わせを行ってください。

タイマーの使用方法

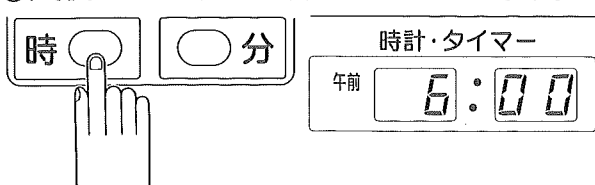
■運転時刻の合わせ方



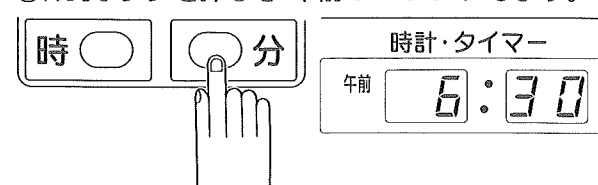
1. オープンポケット内の時計調節スイッチを「タイマー合せ」にします。
2. 時計調節の「時」・「分」ボタンを押してタイマー点火時刻を合わせます。「分」は5分ごとに動きます。

例：午前6時30分に合わせる場合

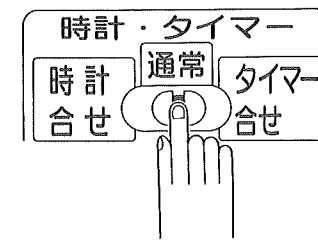
- ①「時」ボタンを押して“午前6：00”にします。



- ②「分」ボタンを押して“午前6：30”にします。



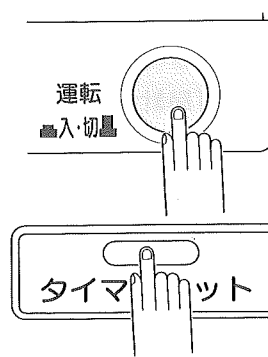
これでタイマーセット時刻が記憶されました。



3. 必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。これで時刻表示には現在時刻が表示されます。

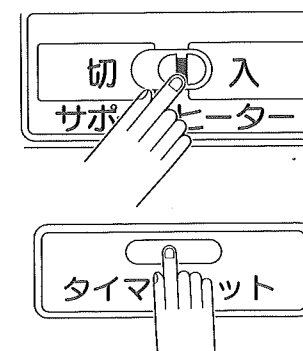
■タイマー運転方法

ストーブ床暖房運転 ストーブ単独運転



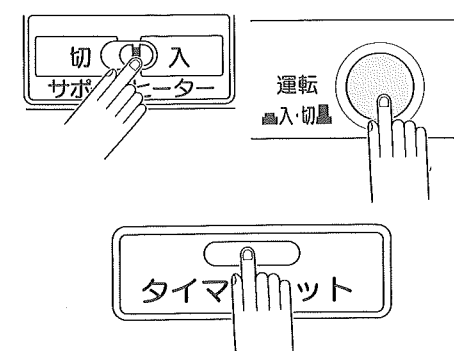
1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
(燃焼中の場合はそのままです。)
2. 運転するときのご希望の室温又は、火力に合わせてください。
3. 床温調節ボタンで、床暖温度をご希望の温度に合わせてください。
(ストーブ床暖房運転のみ)
4. タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。
(このとき、燃焼用送風機が10分間運転しますが異常ではありません。)

サポートヒータ運転



1. オープンポケット内のサポートヒータスイッチを「入」にしてください。
2. 床温調節ボタンで、床暖温度をご希望の温度に合わせてください。
3. タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。

ストーブ床暖房・サポートヒータ併用運転



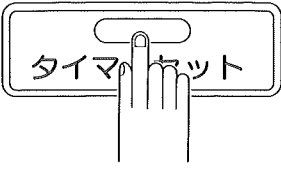
1. 運転スイッチとサポートヒータスイッチを「入」にしてください。
(燃焼中の場合はそのままです。)
2. 運転するときのご希望の火力に合わせてください。
3. 床温調節ボタンで、床暖温度をご希望の温度に合わせてください。
4. タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。
(このとき、燃焼用送風機が10分間運転しますが異常ではありません。)

- タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。
- 運転中にタイマーセットボタンを押すと、ストーブは自動消火し、運転を停止します。

- タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
- おでかけのときのタイマー点火は避けてください。

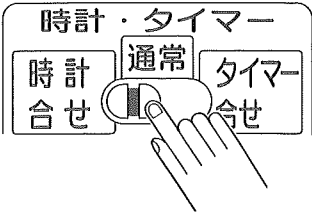
タイマーの使用法

タイマー運転の解除

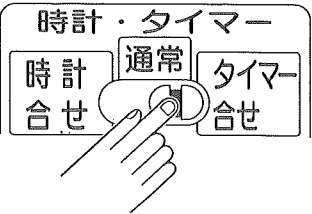


- タイマーセットボタンを押します。
タイマー表示ランプが消灯し、時刻表示に現在時刻が表示され、タイマー運転が解除されます。
- このままであれば自動的に運転を開始します。運転を停止する場合は、運転スイッチ（サポートヒータ運転の場合はサポートヒータスイッチ）も「切」にしてください。

タイマーセット時刻・現在時刻の確認



現在時刻の確認



タイマーセット時刻の確認

- ①時計調節スイッチを「時計合せ」又は「タイマー合せ」に合わせます。
- ②現在時刻又は、タイマーセット時刻が時刻表示に表示されます。
- ③確認後、時計調節スイッチは、必ず「通常」位置にもどしてください。

自己診断モニタについて

ストーブにトラブルが発生すると、トラブルの状態が設定室温表示に記号表示（自己診断モニタ）されます。この場合記号表示の内容を、ストーブ左側面に印刷された自己診断モニター一覧表、または25～26ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」をご覧ください。

〈自己診断一覧表〉

表示	原因	解除方法	表示	原因	解除方法
E1	途中消火	①	P1	ボット予熱不足	②
E2	不着火		P2	ボット温度低下	
E3	対震作動		P3	ボット異常過熱	
E6	ルームサーモ断線		P4	不消火 (消火時間が長い)	
E7	停電		P5	基板不良	①
E8	疑似火災	①	F1	熱交サーモ作動	
EA	燃焼用送風機異常検出		F2	湯温サーミスタ断線	
EC	ルームサーモ短絡		FC	湯温サーミスタ短絡	
EE	停止時ボット異常過熱				
EO	基板温度異常				

解除方法

- ①運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
- ②電源プラグを一旦抜き、1分後に再び入れ直してください。（必ず販売店に修理を依頼してください。）

使用上の注意

床暖パネルの温度調節

- 床暖の温度調節は、足元（床暖パネルの表面温度）の温度調節のため、部屋全体の温度調節ではありません。カーベットの表面が熱くなりすぎないように使用温度には十分注意してください。

循環水の凍結予防（循環液の注入）

- 寒冷地だけでなく、暖かい地域でも凍結予防及び腐食予防のために、必ず循環液を入れてください。
- 循環液は必ずコロナ床暖房用循環液（別売品）をご使用ください。他の不凍液を使用したり、混合したりすると製品の寿命が短くなります。
- 循環液は3年を目安に入れかえてください。（開封した循環液も含む）

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」の他に、次の項目についても注意してください。

- 上面ガードは、地震などにより可燃物が落下したときなどに火災を防止するためのものです。やむをえず取りはずした場合は、必ずもとの状態に取り付けておいてください。
- クリーニング店、美容院などの化学薬品を使うところや温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- 雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

6.安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。
すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
対震自動消火装置 (E3表示)	●強い地震や衝撃を受けたとき ↓ ・モニターサイン E3 表示 ・自動的に消火	●ストーブの周辺に異常がないか確認し、点火操作してください。 (対震自動消火装置は作動後自動的にセットされます。)
点火安全装置 燃焼制御装置 (フレームロッド) E1表示・E2表示 (途中消火) (不着火)	●点火ミスをしたとき ●途中消火をしたとき ●炎が異常に小さいとき ↓ ・モニターサイン E1 表示または E2 表示 ・自動的に消火	●日常の点検・手入れ(20～24ページ参照)をしてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
停電安全装置 E7表示・E9表示 (30秒以上) (1秒以上 30秒未満)	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき ↓ ・通電後モニターサイン E7 表示または E9 表示 ・自動的に消火	●E7 の場合、時計などのセットをしてから、点火操作をしてください。 ●E9 の場合、通電後点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。

7.その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
再点火安全装置	<div>●消火直後、再点火操作したとき</div> <div>↓</div> <div>・約2分間の冷却後でないと点火動作に入らない</div>	<div>●約2分経過後、自動的に点火動作を開始します。</div>
燃焼用送風機異常 検出装置 (ER 表示)	<div>●回転数が異常に低下したとき</div> <div>↓</div> <div>・モニターサイン ER 表示 ・ストーブの運転を停止</div>	<div>●異常低下の原因を取り除いてから点火操作をしてください。</div> <div>●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。</div>
過電流防止装置 (表示部全消灯)	<div>●内部配線のショートにより過電流が流れたとき</div> <div>↓</div> <div>・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止</div>	<div>●お買い求めの販売店に修理を依頼してください。</div>
循環水過昇防止装置 (FI 表示)	<div>●循環水が極端に減少したとき</div> <div>●循環水が循環しないとき</div> <div>↓</div> <div>・モニターサイン FI 表示 ・ストーブの運転を停止</div>	<div>●循環水の量を確認する等により循環水過昇原因を取り除いてから点火操作をしてください。</div> <div>●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。</div>
サポートヒータ過熱防止装置	<div>●循環水が極端に減少したとき</div> <div>●循環水が循環しないとき</div> <div>↓</div> <div>・サポートヒータへの通電を停止 (温度が下がると自動的に通電を再開)</div>	<div>●運転をいったん停止して、日常の点検・手入れ(23ページ)をしてください。</div> <div>●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。</div>
安全サーミスタ(基板上:73℃) (EO 表示)	<div>●ストーブの上面及び側面が囲われているとき</div> <div>●ストーブの前面に障害物などがあるとき</div> <div>↓</div> <div>・モニターサイン EO 表示 ・自動的に消火</div>	<div>●原因を取り除いてから点火操作をしてください。</div> <div>●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店にご相談ください。</div>

8.日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ポットバーナが冷却してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

△注意 電気部品の分解や市販品との交換は絶対にしないでください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

●**△注意** ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。

■ほこり・汚れ（使用ごと）

●ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。
ストーブはいつも清潔にしてご使用ください。

■油漏れ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

●置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。
又、給油の際にこぼれた灯油は、よくふきとってください。

●油漏れのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズン初め）

●**△注意** ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。
屋外での使用は禁止されています。

●屋内でゴム製送油管を使用しているときは、手で少し曲げ膨潤、収縮、変質、変形、ひび割れがないか確認し、欠点のあるときは交換してください。
交換の目安は、3年に一度です。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

●油タンク内は水やごみがたまりやすいものです。給油のとき、点検してください。
油タンク内の水抜き及び掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■煙突の接続部のゆるみ及びトップの周囲（シーズンの初め、適時）

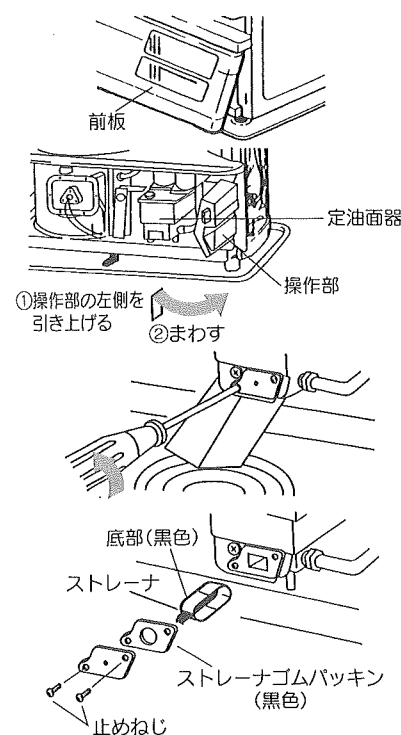
●煙突の接続部、煙突トップのはずれがないかを点検してください。煙突が腐食したり、穴があいたりしていると危険ですので新しい物と交換してください。

●煙突の近くには燃えやすいものを置かないでください。

●煙突内は結露で生じた水滴が凍ってつまると危険です。点火時に、煙突のつなぎ目やストーブより異常な煙が出たら消火して、煙突内部を点検してください。

■定油面器のストレーナの掃除（適時）（お買い求めの販売店に依頼してください。）

- 定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
ごみがたまると、灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなります。
次のように掃除してください。

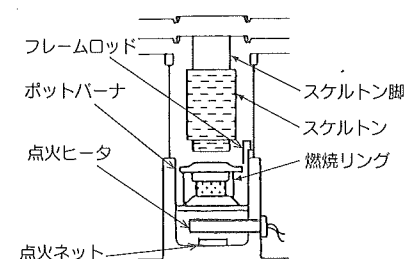
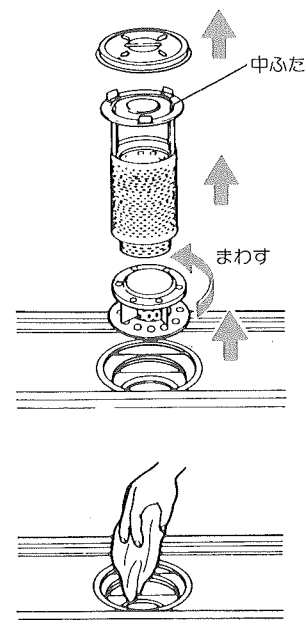


1. 油タンクの送油バルブを閉じてください。
2. ストープの前板を止めているねじ（5本）をはずし、前板の下側を引き上げて、前に引いて取りはずしてください。
3. 操作部を左図のように、①操作部の左側を少し引き上げて、②手前にまわして、開いてください。定油面器がみえてきます。
4. ストレーナの掃除口にハガキなどの厚紙を差しこんで、油ガイドを作り、その下に容器を置いてストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。
定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。
5. ストレーナを取り出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。（水で洗わないでください。）

- ストレーナゴムパッキンを忘れぬようにしてください。
- ストレーナを逆に入れないでください。また、底部（黒色）が必ず、左横になるように取り付けてください。
- ストレーナの止めねじを、固く締め付けてください。
- 油漏れがないか確認してください。

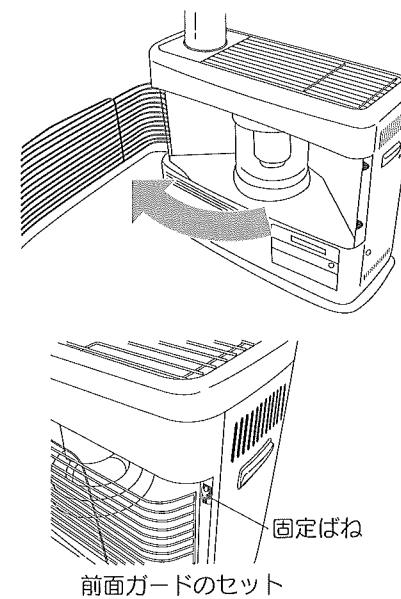
■ポットバーナの掃除（適時）（お買い求めの販売店に依頼してください。）

- ご注意** 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態でおこなうとやけどのおそれがあります。
- ポットバーナにすすがついて炎の形が不揃いになったときや、ポットバーナの底にすすやカスがたまりすぎて着火がおそくなったときは、次のようにしてすすを取り除いてください。



1. 上面ガードをはずしてください。
2. 燃焼筒ふたをはずしてください。
3. スケルトンは中ふたに取り付いています。スケルトンをガラス円筒にあてないようにして、取りはずしてください。
4. 燃焼リングをフレームロッドに当てないように注意して左図の方向に燃焼リングをまわし、取りだしてください。
5. 点火ヒータ、点火ネットをいためないように、ポットバーナ内部のすすをドライバーなどでかき落としてから、布などでふきとってください。
6. 組立ての際、燃焼リングは、左図のように正しく確実に取り付けてください。

■反射板・ガラス円筒の掃除（適時）



- ご注意** 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。
- 反射板及びガラス円筒にほこりがたまりますと、反射効率が悪くなるばかりでなく危険ですので、次の要領で適時掃除をしてほこりを取り除いてください。

1. 前面ガードを右側の固定ばね（2個）からはずし左側にまわしてください。
2. ガラス円筒を割らないように注意して、掃除機などで内部のほこりをきれいに掃除してください。
3. やわらかい布などで、反射板及びガラス円筒をきれいに拭いてください。
4. 掃除が終わりましたら、もとどおりにセットしてください。

- 前面ガードは、きちんと取り付けてください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■ガラス円筒内部の掃除（適時）（お買い求めの販売店に依頼してください。）

- 【ご注意】**掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。
- 長期間の使用によりガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、22ページ「ポットバーナの掃除」の項にしたい、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。
- ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えたりしないよう注意してください。
- 運転中にガラスが徐々にすすけた場合は、しばらくの間（約30分間）火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。

■点火ヒータ・点火ネット・ノズルの点検（シーズンの初め）（お買い求めの販売店に依頼してください。）

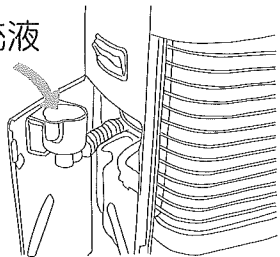
- 点火ヒータや点火ネットにすすが付着しますと、赤熱が低下したり、油のひろがりが悪くなり、着火不良の原因になります。
- ノズルの先端にすすが付着しますと、異常燃焼になったり、着火不良や消火時間が長くなる原因になります。シーズン初めには、必ず点検してください。
- 点火ヒータ、点火ネット、ノズルの点検・交換は破損のないように注意して行う必要がありますので、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

■フレイムロッド（燃焼制御装置）の点検（適時）（お買い求めの販売店に依頼してください。）

- フレイムロッドの先端にすすが付着したり、フレイムロッドが変形すると、誤作動の原因になります。すすの付着やフレイムロッドの変形がある場合は、必ずお買い求めの販売店に点検・交換を依頼してください。

■循環水の補給（適時）

補充液



シスターンタンク内の循環水は、少しずつ蒸発しますので、ときどき確認して、循環水が不足している場合は、そのつど規定水位まで床暖房専用補充液を補給してください。

- 給水口扉を開き、床暖房専用補充液を上限水位まで追加してください。
〔配管などからの水漏れで補給する場合は、床暖房用循環液を入れてください。〕

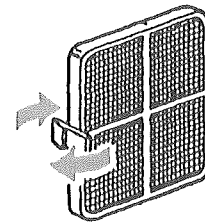
- コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・床暖パネル・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液で、すでに純水で適正な濃度に調合してありますので、試運転時にはこのままストーブに入れてください。
- 他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりしますと防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに、沸騰してしまうことがあります。
- 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 循環液は3年を目安に入れかえてください。（開封した循環液も含む）
- 循環液の凍結温度は、 -20°C に調合されています。

■温水配管の水漏れ確認（適時）

- ストーブ内部や温水配管接続部分から水漏れがないことを確認してください。

■燃焼用送風機ファンフィルタの掃除（適時）

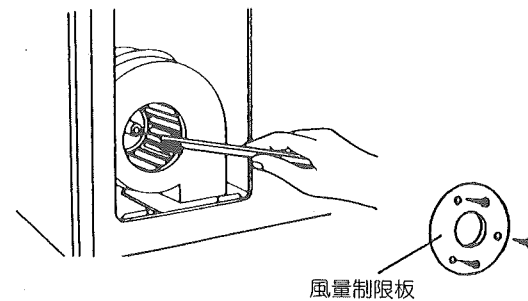
- ファンフィルタがごみやほこりで目づまりすると、燃焼不良の原因になります。次の要領でストーブ裏面のファンフィルタの掃除を行ってください。



1. 左図の矢印のようにファンフィルタに力を加えながら引き出し、ストーブ裏面から取りはずしてください。
2. ブラシなどでフィルタのほこりを取り除いてください。
3. 掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

■燃焼用送風機の掃除（年1回以上）

- 燃焼用送風機ファンにごみやほこりがたまると、送風力が弱くなり燃焼が悪くなったり、音が大きくなってくることがあります。このようなときには、燃焼用送風機ファンのほこりを取り除いてください。



ストーブ後側のファンカバーと風量制限板をはずし、ブラシなどで静かにほこりを取り除いてください。

- 清掃が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

- 燃焼用送風機ファンに力を加えますと、曲りや傾きを生じて、回転のときに音が出ますので力を加えぬようにしてください。

■地震などの災害が発生したときの点検について

- 地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
 - ・煙突まわりのはずれ、漏れの確認
 - ・灯油配管からの漏れの確認
- 点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

9. 定期点検

長期間で使用になりますと、ストーブの点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに点検を実施してください。点検のご相談は、お買い上げ店または修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店までお問い合わせください。

10.故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。
●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現 象		説 明
点 火 時 ・ 消 火 時	初めて使用するとき、煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	すぐに点火しない。	予熱点火方式のため予熱時間が2分程度必要です。 (予熱時間は室温により多少変化します。)
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にボンと音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。

■使用中に異常がありましたら、次表により原因を調べて処置をしてください。
●原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買い求めの販売店、またはお近くのコロナお客

原因	現象	E 1	E 2	E 3	E 7	E 8	E 0	炎が大きくなる ならない	黒煙を出して燃える
		(途中消火)	(点火しない)	(対震作動)	(停電) E 9 (停電)	(疑似火災)	(安全サーミスタ) 作動		
電源プラグをコンセントに差しこんでいない									
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた				●					
送油バルブが閉まっている		●	●						
ゴム製送油管に空気だまりがある		●	●					●	
定油面器に水、ごみの目づまり		●	●					●	
煙突の設置が基準通りでない。煙突の横引きが長い									●
燃焼用送風機のファンフィルタにほこりがたまった									●
煙突工事不適當のため逆風現象がある		●							●
燃焼リングの取り付けが悪い									●
煙突のつまり									●
強風などにより、煙突の引きが極端に強い		●							
油漏れがある									
煙突の接続部にすきまがある									
フレームロッドにすすが多量に付着した		●				●			
長時間停電があった（30秒以上－E 7表示）					●				
停電があった（1 秒以上 30秒未満－E 9表示）					●				
ルームサーモ取付位置が悪い									
ストーブの上面及び側面が囲われている							●		

10.故障・異常の見分け方と処置方法

現 象		説 明
燃 焼 時 ・ 消 火 時 ・ 他	青炎の中に黄色い炎(赤火)が混じる。	異常ではありません。
	煙突の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるため、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際、一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じて販売店にご連絡ください。

現 象	症 状
点火時・燃焼時・消火時に「ボーン」という大きな音がした。	ストーブが損傷したりパッキンが飛散しているおそれがあります。
黒煙を出して燃えている。	燃焼が異常になっています。
置台に油が漏れている。	送油配管より油が漏れています。

様ご相談窓口にご連絡ください。 ※設定室温表示にモニターサインが表示されます。

原因 \ 現 象							処 置 方 法
	ガラス円筒がすける	音をたてて燃える	灯油のにおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	室温が低いのに火が大きくならない	
					●		コンセントに確実に差しこむ
							24ページの「地震などの災害が発生したときの点検について」の点検項目を確認し、運転スイッチを押し直し再点火する
							送油バルブを開く
							ゴム製送油管を振る。山形になっている所は平に直す
							送油バルブをしめてストレーナをはずし、掃除する。油タンクの水を抜く
●							基準通りに設置する
●							ファンフィルタのほこりをブラシなどで掃除する
●			●	●			煙突の取り付けを適正にする
●	●						正しく取り付ける
●	●						煙突を掃除する
		●					ドラフトレギュレータなどを取り付ける。煙突を基準通りに設置する (販売店に依頼する)
			●				漏れ力所を締め直す (販売店に修理を依頼する)
			●				すきまをなくす
							すすを取り除く (販売店に修理を依頼する)
							設定室温、時刻などをセットし再度点火操作をする
							リセットし再度点火操作をする
						●	適正な位置に取り付け直す
							過昇原因を取り除く

11. 部品交換のしかた

■ 部品交換のときの注意

△注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店又は、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士) など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は**コロナ純正部品**とご指定ください。

部品ご購入の際には、コロナ製品取扱販売店で必ず**コロナ純正部品**とご指定ください。
純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、ストーブを損傷したり思わぬ事故の原因になります。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

項 目	内 容
使用期間により交換が必要な部品	ポットバーナ・点火ヒータ・燃焼リング・スケルトン フレームロッド・点火ネット・ガラス円筒・各種パッキン
環境により劣化しやすい部品	プリント配線板・燃焼用送風機・ゴム製送油管
変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品	電磁ポンプ・定油面器・ノズル

12. 保管（長期間使用しない場合）

設置したままで保管される場合やしまわれるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

■ 手入れのしかた

- 1. **△注意** 電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。
- 2. 油タンクの灯油は、すっかり出してください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと、油タンクが腐食する原因になります。
- 3. 定油面器のストレーナをはずして、水分やごみを除き、定油面器の中の灯油を抜いてください。
- 4. ファンフィルタのごみやほこりを取り除いてください。
- 5. 内部のほこりを取り除いてください。
- 6. 塗装部分は、湿った布で汚れを落としてから、からぶきしてください。
- 7. 放熱器のサビなどがある所をペーパーで磨き「補修用の塗料」（別売品）で塗装してください。

■ 保管方法

- 1. きれいになったら、乾燥した場所に横倒しにしないでおしまいください。
- 2. 床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。
- 3. ストーブ内の循環水を抜いて保管する場合は、エアー抜きバルブを開いておき、エアー抜きバルブ配管内も乾燥させてください。
- 4. 「取扱説明書」・「工事説明書」は、大切に保管してください。

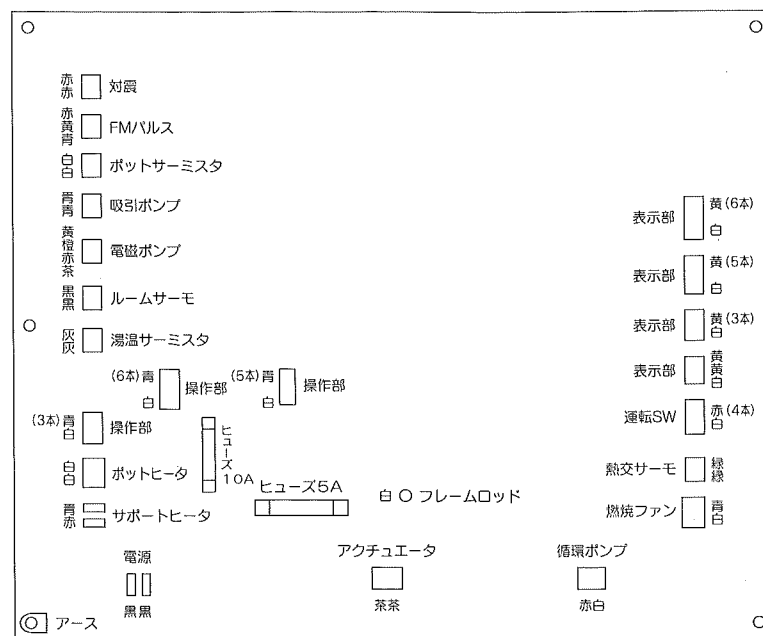
13. 仕 様

仕 様

型 式 の 呼 び 名			UH-7710PR	
種 類			ポット式・屋内用・強制通気形・自然対流形・床暖房用	
点 火 方 式			電気点火式	
使 用 燃 料			灯油（JIS1号灯油）	
燃 料 消 費 量	床 暖 房 運 転	最 大	9.72kW（0.945L/h）	
		最 小	2.26kW（0.22L/h）	
	ストーブ単独運転	最 大	9.72kW（0.945L/h）	
		最 小	2.26kW（0.22L/h）	
発 熱 量 及 び 熱 効 率	床 暖 房 運 転	最 大	35,000kJ/h	熱効率 78.8%
		最 小	8,150kJ/h	熱効率 81.9%
	ストーブ単独運転	最 大	35,000kJ/h	熱効率 69.0%
		最 小	8,150kJ/h	熱効率 67.0%
暖 房 出 力	床 暖 房 運 転	最 大	7.66kW	循環水量 180L/h
		最 小	1.86kW	循環水量 100L/h
	ストーブ単独運転	最 大	6.71kW	
		最 小	1.52kW	
最 大 床 暖 房 出 力（床暖房運転）			最大燃焼時 2.09kW	循環水量 180L/h
サポートヒータ出力（サポートヒータ運転）			0.500kW	循環水量 100L/h
熱 効 率		最 高	81.9%（床 暖 房 運 転 目盛微少のとき）	
		最 低	67.0%（ストーブ単独運転 目盛微少のとき）	
標 準 適 室	床 暖 房 運 転	温 暖 地	木造 36.5㎡（22畳）	コンクリート 49.5㎡（30畳）
		寒 冷 地	木造 36.5㎡（22畳）	コンクリート 58.0㎡（35畳）
	ストーブ単独運転	温 暖 地	木造 29.5㎡（18畳）	コンクリート 41.5㎡（25畳）
		寒 冷 地	木造 31.5㎡（19畳）	コンクリート 49.5㎡（30畳）
本 体 水 容 量			2L（器具内蔵シスターン上限水位時）	
床暖房用熱交換器の最高使用圧力			シスターン大気開放	
外 形 寸 法			高さ615mm 幅748mm 奥行368mm（置台を含む）	
質 量			33kg	
電 源 電 圧 及 び 周 波 数			100V 50Hz/60Hz	
定 格 消 費 電 力	床 暖 房 運 転	点火時 360/360W・最大燃焼時 38/43W		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	点火時 340/340W・最大燃焼時 15/15W		
	サ ポ ー ト ヒ ー タ 運 転	最大運転時 625/625W		
待 機 時 消 費 電 力		2.8W		
床パネルの 接 続 面 積	床 暖 房 運 転	4.5～19.5㎡（3畳～12畳）（最大燃焼時）		
	サ ポ ー ト ヒ ー タ 運 転	4.5㎡（3畳）		
温 水 配 管 接 続 口			外径φ8mmニップル	
煙 突 の 呼 び 径			φ106mm（3寸5分）	
煙 突 の 壁 貫 通 部 の 孔 径			φ110mm	
排 気 温 度	床 暖 房 運 転	330℃以下		
	ス ト ー ブ 単 独 運 転	480℃以下		
電 流 ヒ ュ ー ズ			5A・10A	
安 全 装 置			対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置・停電安全装置	
そ の 他 の 装 置			再点火安全装置・循環水過昇防止装置・燃焼用送風機異常検出装置・ サポートヒータ過熱防止装置・過電流防止装置・安全サーミスタ	
附 属 品			置台1個・バックチューブ2.5m・ホースバンド2個・遮熱板1個・本体固定金具2個(ねじ2個) ゴム製送油管締付バンド2個・取扱説明書・工事説明書	

備考）・標準適室は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板 端子配置図



14.アフターサービス

■保証について

- このコロナ石油ストーブには保証書がついています。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのおと、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日から1年間です。
- 次のような原因による故障及び、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。(詳しくは保証書をお読みください。)
- 変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
- 誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるときについて

- 「故障・異常の見分け方と処置方法」(25・26ページ)にしたがってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - ① 品名
 - ② 型式の呼び
 - ③ お買い上げ日
 - ④ 故障の状況(出来るだけ具体的に)
- 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。
- 保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。
- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

■補修用性能部品について

- 当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、7年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■故障・修理の際の連絡先

- お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にご連絡ください。

15.据付け・移設

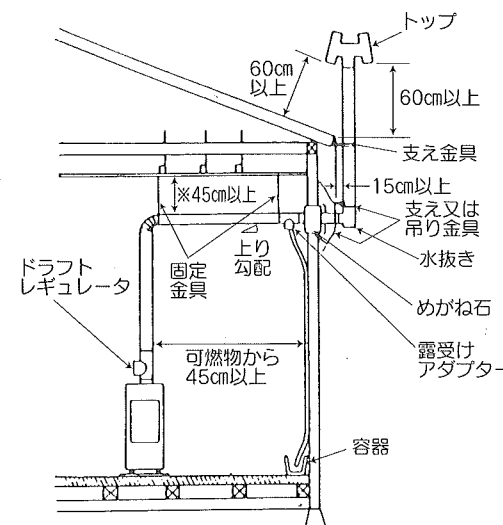
据付け・移設工事は販売店に依頼する

据付けや移設工事は販売店または、据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

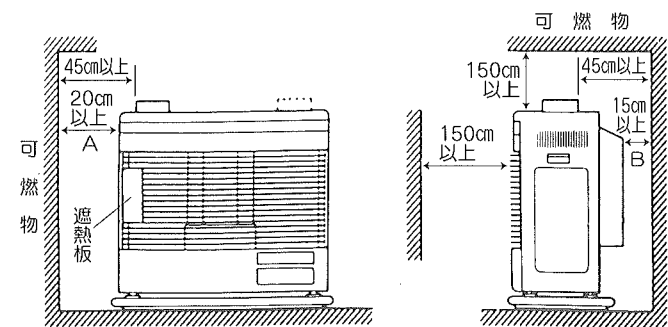
据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書(工事編)の「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」をお読みにになり、販売店又は据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

標準据付け例



煙突の先端から水平距離 1 m 以内に建物の軒がある場合は、その軒から 60cm 以上高くすること。
煙突の先端から 1m 以内に建物の開口部(窓)がないこと。

- ※印寸法は、煙突が本体から 1.8m を超える場合は 15cm 以上。
- 煙突は、固定金具で 1.5～2m 間隔に固定すること。
- 設置の場合は当該地区の火災予防条例にしたがってください。
- 風の強い地域では、必ず、ドラフトレギュレータを取り付けてください。
- 結露水が出る場合には、露受けアダプターを取り付け排出した結露水は、容器に受けてください。
(結露予防のため、煙突の横引き長さはできるだけぎりぎり短く、2m 以内にしてください。)



(備考)

1. A・B寸法は、20cm 以上、15cm 以上と示していますが、煙突と可燃物との距離(45cm 以上)でも規制されます。可燃物との距離が長くなるように設置してください。
2. 遮熱板を取り付けない場合は、側面との距離を 30cm 以上離してください。

- テレビやラジオから 1m 以上離してください。

据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書(工事編)の「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」をお読みにになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

試 運 転

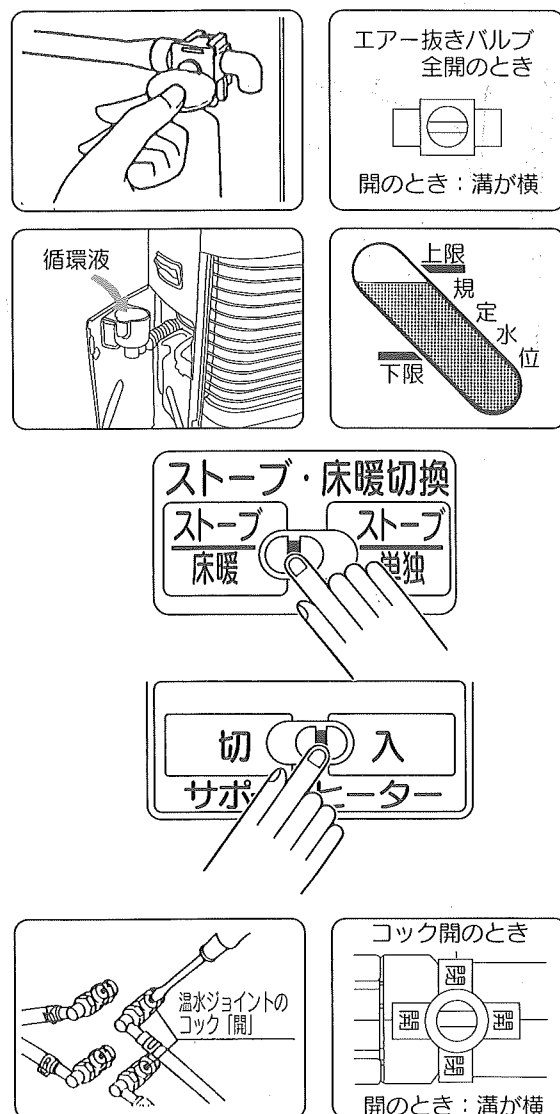
試運転は販売店又は据付業者と一緒に必ず行ってください。

■ 運転準備

- **△注意** 電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実にさしこんでください。
- 油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。
- 送油経路やストーブより油漏れがないか確認してください。
- 配管途中にバルブなどがある場合には、全開にしてください。
- 安全装置をセットしてください。
〔定油面器リセットレバー（黒色）を左方向に止まるまで押してください。〕
- タイマー運転になっていませんか。

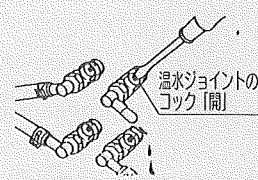
■ 循環液の給水方法

1. 給水前にエア抜きバルブが全開になっていることを確認してください。
（工場出荷時には開いてあります。）
必ず全開にしてください。
2. ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位（上限水位）まで循環液（コロナ床暖房用循環液）を入れてください。
3. 操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖房」にセットしてください。
4. 操作部のサポートヒータスイッチを「入」にしてください。
循環ポンプが運転を開始します。
5. 器具の左背面にある行きと戻り両方の温水ジョイントのcockを「開」にしてください。
● 2回路配管の場合は、項目5、6を1回路ずつ行ってください。
6. シスターンタンクの水位が下がり始めますので上限水位まで循環液を給水してください。
（シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。）

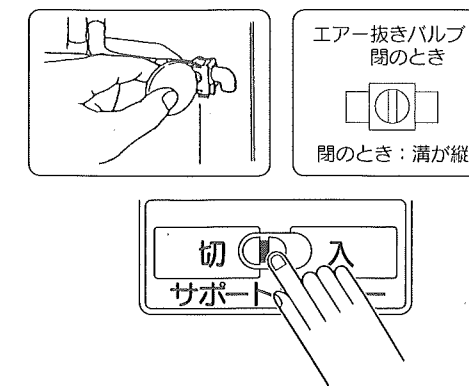


- 温水配管施工などの関係で、エア抜きバルブではエアが抜けきらない場合は、次の方法があります。

〔温水行き口のcockを閉にして温水配管接続をはずし、cockを開いて循環水を少しずつ流し、エアを抜く
（循環液がこぼれないように容器を用意してください。）〕



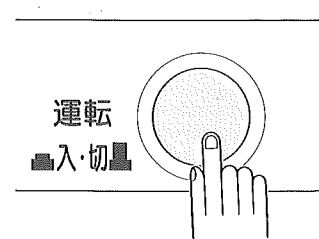
7. シスターンタンクの水位が下がらなくなったら循環液の給水は終了です。
エア抜きバルブを「閉」にしてください。
● 循環ポンプの運転音が静かになります。
8. 温水配管路に、水漏れのないことを確認してください。
● 運転の途中で床暖パネル等に水漏れがあった場合は、操作部のサポートヒータスイッチを「切」にして循環ポンプを停止させてください。
9. 異常のないことを確認したら完了ですので操作部のサポートヒータスイッチを「切」にして循環ポンプを停止させてください。



■ 運転

- 運転は、ストーブ床暖房運転でおこない、正常に運転することを確認してください。

ストーブ床暖房運転

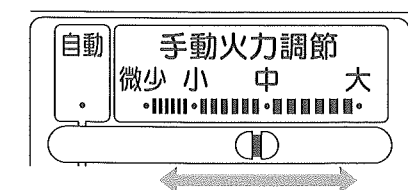


1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
● **△注意** 初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。
● 約3～4分間の予備燃焼が終わると本燃焼に切りかわります。
2. 温水配管経路に、水漏れのないことを確認してください。

- 運転の途中で温水配管経路に水漏れがあった場合

- ① 操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切りかえて循環ポンプを停止させてください。
- ② 運転スイッチを押して「切」にしてストーブの運転を停止してください。

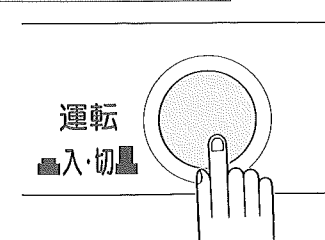
3. 異常がなければ、火力調節つまみを「微少」～「大」に設定してください。
しばらくして床暖パネルが暖くなることを確認してください。
● 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）がまじっても異常ではありません。



4. 2回路配管（2部屋配管）の場合はA回路・B回路のそれぞれ、温水行き口・温水戻り口が間違いなく配管されていることを確認してください。

■ 消火の手順

ストーブ床暖房運転



- 運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、循環ポンプが停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

- 正常運転しない場合は、25～26ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照してください。
- 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順に従い、試運転を行ってください。

MEMO

MEMO

182